

国際ロータリー第2660地区

ガバナー

大谷 透



暑中お見舞い申し上げます。

毎年、7月より新しいロータリー年度が始まり、RIでは各月ごとに強調事項を定めています。8月は会員増強・拡大月間です。ここで実りある活動が出来るようにと、我々はすでに5月30日に「会員増強セミナー」を開きました。

ある団体を構成する会員数が増加傾向にあるか減少傾向にあるかは、その団体の活力を表す重要な指標の一つです。

最初は4人の集りであったロータリークラブが、百年の間に世界的な組織にまで発展した要因は何だったのでしょうか。その活力の源はどこにあったのでしょうか。それは入会した会員の多くが、楽しく且つ有意義で、自分のためにも、人のためにも、社会のためにもなるクラブだから、仲間を増やしたいと思ったからに違いありません。

会員増強が強調され、それを実現するための方策が考えられる時、いつも吟味すべき点として挙げられるのが、クラブの内容です。新入会員にとってそのクラブが十分に魅力的であるかどうかです。

中国の古語に「桃李不言、下自成蹊」という言葉があります。桃やすももは自分から宣伝めいたことは言わないが、良い実がなっていると、その実を取ろうとして人が集まってくるので、その下には自ずから蹊ができるものだ、という意味です。

例会の内容やクラブの諸行事は、個々の会員が魅力的だと感じるほど十分に楽しく且つ有意義だろうか。会員同士の交友関係は良好に深ま

っているだろうか。自分はロータリアンとして、人の心を動かすことができるほど十分にロータリーを身につけているだろうか。これらが備わっておれば、会員増強・拡大月間を作っても、頑張らなくても、「桃李不言、下自成蹊」の如く、自然に増強されると考えられるからです。

しかし、会員の増強・勧誘と自己研鑽やクラブ活動内容の充実とは、クラブを良くし、発展させるための両輪です。

「役職が人を育てる」ともよく言われます。もう少しロータリーを身につけてから役を引き受けようといっていたのでは、何時までたっても成長はありません。立派なプロになるためには自己訓練と現場での実践との両方の積み重ねが大切であることは言を待ちません。

ケニー会長は「量的・質的な会員増強は重要な優先事項ですが、今日のような不況下で私は、この分野において新しいプログラムを設けたり、現実的でない目標を新たに設けたりはいたしません。しかし、年度末には、年度の初めに比べ会員が一人でも増えている状態となるべく、努力をお願いする次第です。そのためには退会者を出さないという事が、勧誘と同様に重要であることを踏まえ、皆さんが新入会員の世話を十分に行ってくださいるものと信じております。」と述べています。

まずは行動を起こしてください。勧誘や新入会員との友好。するとロータリーが身につきます。会員増強のため何かを実行して下さるあなたの手の中に、ロータリーの未来はあるのです。